

孔子
——名は丘、字は仲尼——

年 組 氏 名

山の神に授かった子（名前の由来）

孔子の父は叔梁紇（シユクリヨウコツ）といい、武将であつた。また、母親は顔徴在（ガンチョウザイ）といい、父の後妻であつた。

父親は先妻とのあいだに九人の子供がいたが、男は一人で、この長男は体が弱かつた。父親が後妻の顔をめとつたのは、だいふ年をとつてからだつたので、子供が生まれる望みはほとんどなかつた。そこで母親は、当時の慣習にしたがつて、郷里の有名な山、「尼山」にお祈りをして、子供を授かろうとした。そのかいあつて、孔子が生まれた。それで山に關係のある「丘」という名をつけたといわれる。また、次男には「仲」という文字をつけた習慣と、尼山にお祈りをして生まれた子供だからということとで字を「仲尼」とつけたといわれる。

孔子の子孫は一〇万人？

孔子の生まれたところは、魯の昌平郷の陬邑（そうやう）というところで、今の山東省曲阜（こうふ）にある。

生年月日は今の太陽暦（たいやうれき）になおすと、紀元前五五二年八月二十七日ということと、今でも誕生日をはさんで前後十日間は、毎年曲阜の町をあげて、盛大な生誕祭が開かれ、地元はもとより、ホンコン・マカオ・日本などから華僑や外人観光客などが集まってくるという。

また、現在も孔子の子孫がおり、「孔」という姓の人数が一〇万人もいて、さかのぼればなんらかの形で孔家とつながっているという。

身長二メートル二〇センチ？

孔子は、生まれてすぐに父をなくし、母親も子供のころになくして、孤児（こじ）となつたとの伝説もあるほど、少年時代は苦難に満ちたものであつたらしい。しかし、彼はその境遇に負けず、種々の技能を身につけて独力で進路を切り開いていった。

貧困の中で育つた孔子は、武将の父親から人一倍強健な体をもらい受け、人から「長人」とよばれるほど背が高かつた。孔子の身長は九尺六寸といわれ、当時の中国人のなかでもきわだつて大きかつた。ほぼ一メートル九六センチから二メートル（一説には二メートル二〇センチ！）あつて、遠くからでもよく見えたという。

子 孔



三か月も感動し続けた音楽好き

子、斉（し）に在（あ）りて、韶（しやう）を聞くこと三月。肉の味を知らず。

（『述而篇』）

孔子の趣味は音楽であつた。本当に好きであつたらしく、斉（し）という国へ行つたとき、舜帝（しんてい）がつくつたという「韶」という音楽をきいたときは、その曲に感動して、三か月ものあいだ、肉の味がわからなくなつたということからわかる。

要するに、音楽は和を尊ぶものであるから、二つのものを合わせる力がある。とくに人の心を一つにまとめ、くれるところがあるのが好きな理由であつたらしい。

食べ物と弟子のエピソード

孔子は、お酒も好きだつた。飲めばいくらでも飲めたようであるが、乱れることはなかつたし、乱れるほどには飲まなかつたようだ。また、食べ物にはかなりやかましいほうで飯の味の変つたのは食べないし、切り目が正しくないものは食べなかつた。

孔子の弟子はたくさんいたが、その中に「子路」という人物がいた。

子路は、力が強く勇猛（ゆうもう）ではあるが、純朴（じゆんぱく）な性格であつた。初め子路は、儒者（にようじゃ）である孔子を「世をまどわすにせ賢者（けんじゃ）め、こらしめてやる」と、左手にニワトリ、右手にブタをひきさげて孔子のもとにやってくるが、孔子と会つて、その偉大（ゐだい）さに圧倒（あつぱく）され、即日（そくじつ）、忠実（しゅうじ）な弟子となる。

この子路は武芸（ぶげい）もほこりにしていたが、孔子と比べると武芸でも負けてしまふのにおどろき、そのうえ、孔子のあらゆる階層（かいそう）の人間の心を見通（みとお）すのだと、きわめて高く、汚（け）れない理想主義（りようしぎ）的な考え方に感心（かんしん）し、心底（しんてい）に孔子にほれこんでしまふ。彼は孔子の悪口（あくぐち）を言う者がいると、ものすごい形相（かたち）でおどしたので、孔子に弟子入りして一年ほどすると、孔子から「お前（まへ）が私のところに来（き）てから、私は悪口（あくぐち）を聞（き）かなくなつた。」といわれた。

この子路は、その後、人間的にも成長（せいしやう）して、孔子の晩年（ばんねん）には一人立ちして、衡（けい）という国を助けていたが、内乱（うちらん）のため殺（ころ）され、死体（してい）を塩（しほ）づけにされてしまつた。これを伝え聞いた孔子は、家中（じやうちゆう）の塩（しほ）づけ類（るい）をことごとくすてさせ、それ以後（いご）、塩（しほ）づけ類（るい）は、いっさい食卓（しょくたく）にのぼらせなかつたという。

孔子の生涯（しやうがい）と思想

孔子は、自分の一生（いっしやう）をふり返つて、まず、「吾（われ）十有五にして学（まな）ぶに志（こころ）す」と言（い）つてゐる。彼は村（むら）の教育（きやういく）組織（そくし）（伝統・行事・軍事（きんじ）などの訓練（くんれん））を通じて行儀（ぎやうぎ）見習（みな）ひを始めた。

孔子にはとくに先生（せんせい）（師（し））というものはいなかつた。彼は、自然（しぜん）や、交流（かうりゆう）するすべての人の長所（ちやうしよ）から様々なことを学（まな）んだので、考えようによつては、すべてが先生であつたといえよう。

「三十にして立つ」と言（い）つた孔子は、この年齢（ねんれい）で、独立（どくりつ）して学問（がくもん）の道（みち）を進（すす）む自信（じゆんしん）がついたと考（かん）えられる。

この時代（じだい）、すでに古代（こたい）の国家（こくが）宗教（しやうきやう）は形式（けいしき）化（か）し、国民（こくみん）の信仰（しんぎやう）が失（うしな）われ、政治（せいざい）、社会的（しゃかいてき）、道德（たうてき）的に無秩序（むじつじき）になつてゐた。そのため孔子は「礼（れい）」の權威（けんい）を復活（ふくわつ）させようと試（し）み、過去の周代（しゆうたい）の諸王（しよわう）を理想（りしやう）人物（ぶつ）とした。

彼の思想（しきう）の中心（しんしん）は「仁（に）」で、この「仁（に）」とは、一般（いぱん）には「公平（こうへい）に人を愛（あい）すること」とか「人間（にんげん）相互（さうご）の愛情（あいじやう）」とかいわれているが、「仁（に）は人（ひと）なり」の言葉（ことば）から、「人間（にんげん）すべての徳目（とくめく）の総称（そうしやう）」と考（かん）えてもよいといえよう。孔子は、その「仁（に）」を実践（じつけん）するために「学（がく）」すなわち読書（よみかき）し、教養（きやうやう）を高めることが大切（たいせつ）であり、「仁（に）」の実践（じつけん）は政治（せいざい）においてあるべきだと考（かん）えた。

孔子は、四〇歳（しじゆうさい）、五〇歳（ごじゆうさい）と年（とし）をとるにつれ、弟子（でし）も多（おほ）くなり、名声（めいしやう）も得（え）て、魯国（ろこく）では宰相（さいしやう）代理（だいり）となつて、政治（せいざい）においても自分の考（かん）えを実践（じつけん）した。しかし、それも数年（すねん）間で、貴族（きぞく）と衝突（しうつごつ）、魯国（ろこく）を去（さ）り、以後（いご）一二年間（いちににねんかん）、諸国（しよこく）歴訪（れきほう）の旅（たび）に出（で）る。しかし、結局（けつぎふ）、孔子（こうし）はどの国（こく）でも受け入れられず、六八歳（ろくはちさい）で祖国（こくこく）に帰（かへ）り、再び子弟（しよてい）の教育（きやういく）に力（ちから）を入（い）れ、七二歳（しちにさい）で没（ぼつ）した。